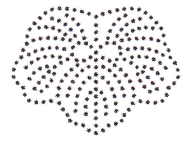


「リョウマ伝」は高野の分身がお客様のとうへご挨拶に向う。という気持ちでお届けしています。



# リョウマ伝

33号  
2022年 8月26日  
高野 竜馬

「メダリストとお仕事」

なんと！この「リョウマ伝」を読んだパラリンピックのメダリストから仕事のご依頼を受けたFPの高野です。

依頼主は昨年の東京パラリンピックで銅メダル（ロンドン大会では金メダル）を獲得されたゴールボールの浦田理恵さん。

勿論お仕事の中身はピミツですが、お会いする度に感じるモノがあるものですから今回はその一部を報告させて頂きます。

私は視覚障害者である浦田さんと接して数年前のある出来事を思い出しました。

それはセミナー講師選定オーディションを受けた時のことです。それに受かると某大手金融機関の講師として企業に

派遣される予定だったので、見事に落選した苦い思い出です。

それまで数百回の講演歴があり自信満々で臨んだにもかかわらず結果は惨敗でした。

あまりにもショックだった私はオーディションの「やり方」が間違っていると言いついて聞かせて、自分を慰めました。

それはオンライン会議システムを使って、私のセミナーを先方に見せるというやり方。

私から先方の反応は全く見えません。暗闇の中でプレゼンしているような状況に、呂律は回らなくなり、伝えられる話も伝えられず、質疑応答では簡単な質問にすら答えられませんでした。

その時、私は日頃、参加者の表情や人の目を、いかに気にしているか思い知らされました。

他人から見らぬにはいるが、自分は相子を見ることが出来ない状況で何も出来なかった私。それに比べて、常に堂々としゃべっている浦田さん。

浦田さんは、自分に出来ることと出来ないことをしっかり認識されていて、ご自身の苦手なこととは笑顔でお願いされます。

初めてお会いした時、エレベーターに乗らないといけない場面でもサブリと介助をお願いされるその明るさにはまず感服させられたものです。

「出来ないことは恥ずかしいことではない。自分が苦手なことは、こうやって笑顔でお願いしたら良いんだよ」と教えられた気がします。

その一方で、データの見方などもお伝えすると、携帯の音声読み上げ機能を使って情報をパソコン入手されるのです。

私から見ると、それは「気の遠くなるような作業であるにも

かわらず、全く気にするどころか嬉々として取り組む姿は私を大きく揺さぶります。

「自分に限界を作っているのは自分かもしれない...」と。

そして私が情報をお伝えする時はいつも「お前間違ったことを言っていないだろうな」と神様に監視されているような感覚を味わうのです。

私は浦田さんとお会いする度に「障害」に対する考え方が変わり、自分の可能性を拓けてもらっています。

浦田さん、いつも有難うございます。そしてこれからますます宜しく願います！！



たかの財形事務所  
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13  
☎090-3407-2123  
<https://www.takanozaikai.com> x-11 fp.takano@gmail.com

「リョウマ伝」の題字は娘（当時9歳）が書いてくれました。